

ロングリバー尺八協会と聖琳社 音楽団体姉妹提携締結に調印を

マ州と札幌の尺八団体が姉妹提携を：
この2月、北海道と姉妹提携をして
いるマサチューセッツ州の音楽教師メ
アリー・E・ミラー等が、この姉妹提
携五周年記念事業のため来札されたが、
二月八日(水)北海道知事主催のフジヤサ
ンタホテルでの歓迎レセプションの
席、両方の尺八団体による姉妹締結が
調印された。
調印が、マサチューセッツ州スプリ
ングフィールド市のロングリバー尺八
協会の会長の任にもあるメアリー・E
・ミラーと、札幌市の新都山流尺八聖
琳社主宰の中島聖山によって、北海道



ロングリバー尺八協会のメンバー



調印式を終えて握手する両団体の代表たち

マサチューセッツ協会両国代表の立会
いものと、次の締結協定内容が結ばれ
た。

『アメリカ合衆国マサチューセッツ
州スプリングフィールド市のロングリ
バー尺八協会と日本国北海道札幌市の
新都山流尺八聖琳社は、これまで両国
間の長い歴史を通じて育んできた友好
関係と、経済・文化・スポーツ等幅広
い分野にわたる交流の成果に基づき、
互いに協力しあつて両団体の発展と友
好親善の促進を図るため、ここに姉妹
団体の協定を締結する。

一、両団体は尺八音楽を通じて、ニ
ューズレターの交換・音楽会や講習会
の開催などを行い、相互理解の増進と
文化交流の発展に努力する。

二、両団体は音楽活動を通じて、世
界平和と地域社会の発展、ならびに姉
妹州交流の促進に努力する。』

なお、この調印後の当面の具体的な

活動は、前記のニューズレターの交換
を直ちに実施するとともに、メアリー
・E・ミラーが在籍するスプリングフ
ールド・コミュニティ音楽学校の昨
年九月の水難後の再建による、本年秋
の同校ホールのオープニングに聖琳社
一行が招聘され、講習及び演奏会等に
参加すること、としている。

水難救済チャリティコンサート開催

なお、メアリー・E・ミラーことメ
アリー女史のこの音楽学校は昨年九月、
水道本管の破裂事故で浸水し、十二台
のピアノをはじめ、保管するすべての
楽器が使用不能となっていた。そのた
め、かねてよりメアリー女史を通じ同
校と交流のあつた聖琳社の中島聖山を
はじめ札幌の音楽家達が、このメアリ
ー女史の来札を前に急遽、その水難救
済のためのチャリティコンサートを企
画、その益金をこれらの楽器購入への
充当するべく活動をはじめ、同調印式
の夜、ザ・ルーテルホールで盛況裡に
「国際チャリティコンサート」として
開催した。

同演奏会は尺八の中島聖山、箏曲の
佐藤のり子等のほか、ソプラノの藤田
道子等の洋楽家等多数の音楽家が賛助
出演し、メアリー女史の尺八及びクラ
リネットによる演奏参加を交えての多
彩な和、洋楽の演奏を披露した。

演奏は三部構成で、第一部が「日本
の調べ」で、八橋検校「みだれ」が佐
藤のり子の箏独奏、宮城道雄「春の夜」
が佐藤のり子等の箏、中島聖山と許名
メアリー聖明で出演したメアリー女史
の尺八による合奏で披露された。第二
部はピアノ伴奏による声楽、日本の歌、

第三部は「音楽は世界をつなぐ」と題して、メアリー女史のクラリネット独奏「五木の子守歌」等と、同公演はメアリー女史を中心として和やかに披露されていた。演奏会は二百余席の会場が溢ればかりの超満員。お蔭で会場費等の最小限の必要経費を除いた益金約九十四万五千円の他、この趣旨に賛同して寄せられた諸団体からの義援金等を加えて、総額約百四十万円の義援金をメアリー女史に託すことが出来た。

十三年にも及ぶメアリー女史との交流

なお、マサチューセッツ州と道の姉妹提携五周年記念事業のため来札されたメアリー・E・ミラーは、前述したようにそれを迎えての中島聖山等によるチャリティ公演と尺八団体間の新しい姉妹提携等が大きな話題となったが、その交流の経緯は、既に十三年にも及んでいる。

その端緒となったのが、昭和五十七年の文部省留学生としての来日。日本文学研究のため北大で一年間学び、その間新都山流大師範であった中島聖山に尺八を師事、メアリー聖明の名を得て、帰国後ハーバード大学で虚無僧に関する研究論文により博士号を取得している。一方、昭和四十五年に準師範となったとき以来聖琳社を創設して門人の育成を始めていた中島聖山は、このメアリー女史が帰国するに先立って送別のための演奏会を開催したが、これが図らずも聖琳社の第一回定期演奏会となり、その後の同氏の演奏活動の大きな基盤となっていった。

メアリー女史は帰国後、在任のベル

チャタウンやクラリネット教師をして、いるスプリングフィールド・コミュニティ音楽学校等で尺八の普及に大きく貢献していった。

その後の平成二年二月、マサチューセッツ州と北海道との間に姉妹提携が結ばれたが、図らずも同年四月、中島聖山はメアリー女史の招聘で同州のハーバード大学でのレクチャーをはじめ七都市で約二週間にわたり、尺八を携えての文化交流を行っている。それは昭和六十三年に中島聖山が上梓した「尺八―知識と奏法（ぎょうせい刊）」がハーバード大学の図書館に入ったことを契機として、メアリー女史が尺八による同州への文化交流行脚の熱心な勧めによるものだった。このレクチャーは尺八の民族音楽としての特色、そこに包含される精神性、そして演奏の実際等を中心に構成、交流の場は各都市の小中学校、音楽学校、大学等の教育機関を中心にメアリー女史によりセ

ットされ、各地での音楽団体との民謡合奏や交歓演奏等の交流が続けられていった。その間、各地で尺八の直接指導も多数の人々により要請され、その折、「アメリカ尺八協会を作っておくから、ぜひ定期的に来日」という申し出を受けて、同氏は驚かされたという。このとき、既に今回の姉妹提携となった「ロングリバー尺八協会」の萌芽が始まっていた。

聖琳社演奏会招聘と再度のマ州訪問

平成二年のマサチューセッツ州訪問の二年後の平成四年、中島聖山は聖琳社の定期演奏会の第十回記念公演を迎えていた。その第一回公演は先述した

とおり、メアリー女史の帰国送別がその契機であったが、その間昭和六十二年の第五回定演では、川越守作曲の委嘱作品「尺八とピアノのためのバラード」を初演して、既存の尺八音楽の枠を越えた演奏形態への意欲的な挑戦が評価され、同年度の札幌市民芸術祭賞を受賞していた。そのためこの第十回記念公演を迎えるにあたり、意義深い内容をと模索していたが、かねてより同氏は多数の外国人門弟を育成、また多岐にわたる海外交流を行っていたため、この十回記念公演をアメリカ・カナダから門弟及び尺八愛好者を迎えての「国際交流演奏会」として開催することとした。

この聖琳社第十回記念定期公演としての「国際交流演奏会」は、平成四年八月、北海道、札幌市、北方圏センター、札幌サンプラザ等からの助成を受けて、札幌サンプラザホールにおいて盛況裡に開催された。このとき海外から招いたのは、カナダから一名、マサチューセッツ州からはメアリー女史及びその音楽学校校長・ヴァイオリニストのエリック・バクラク、そして先にマサチューセッツ州の交流訪問の折リ教えを乞うてきた尺八愛好家のクリストファー・ファルコナー、ロイド・アームストロング等の四名であった。演奏会を迎えるにあたり、この五名の外国人は二週間前に来日し、ホームステイを続けながら中島聖山の指導のもと、聖琳社中の会員たちとともに猛練習を続けて演奏会に望み、全九曲のうち五曲に出演した。同公演には道内有数の演奏家として山田流萩岡派の琴友会、生田流創明音楽会藤の会が賛助出演、

また日本舞踊の立方として叶流の叶和里が参加して公演を十二分に盛り上げたが、これら外来の演奏家たちも国際色豊かな彩りを披露して、国際交流演奏会の実をあげていった。



演奏会を終了して挨拶するメアリー女史等出演者の方々

その演奏会の終了後帰国したメアリー女史等尺八愛好家は間もなく、ロングリバー尺八協会を設立した。そして翌五年十月、スプリングフィールド音楽学校開校十周年記念コンサートに、この中島聖山及び聖琳社中会員と日本舞踊の叶和里を招いて、このロングリバー尺八協会が合同演奏等を行い、旬日にわたる伝統芸能の交流の華を拓かせていった。それらの永年にわたる経緯が今回の両国の尺八団体の姉妹提携へと結実していったようだ。さらなる、次の交流への発展の実が期待される。

〈文責・笠井 脩〉